

2-2 協会・支部・会員企業の活動事例

令和7年度 建設業社会貢献活動中央行事で顕彰した事例のうち、前項で紹介した事例の他、ここでは次の43の社会貢献・SDGs活動事例と17の広報活動事例を紹介します。

社会貢献・SDGs 活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
1	福島県	一般社団法人 福島県建設業協会 若松支部	令和7年2月の福島県会津豪雪における除排雪活動
2	石川県	一般社団法人 石川県建設業協会	令和6年9月奥能登豪雨における災害復旧支援活動
3	滋賀県	一般社団法人 滋賀県建設業協会 長浜支部	米原市伊吹地先土砂災害 災害復旧支援活動
4	島根県	一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会	大社日御碕線の道路崩落への応急対応
5	宮崎県	延岡地区建設業協会	延岡市浦城町の土砂災害対応
6	愛知県	株式会社 近藤組	三重県内の豪雪に伴う除雪応急復旧活動
7	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部	高病原性鳥インフルエンザ防疫活動
8	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部	豚熱による防疫活動
9	岩手県	一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部	高病原性鳥インフルエンザ防疫活動
10	茨城県	一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部	豚熱防疫活動
11	茨城県	一般社団法人 茨城県建設業協会 常総支部	八千代町鳥インフルエンザ防疫活動
12	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部	群馬県前橋市の豚熱（CSF）防疫作業
13	千葉県	一般社団法人 千葉県建設業協会	大規模鳥インフルエンザ発生に伴う防疫活動
14	新潟県	一般社団法人 新潟県建設業協会 新発田支部	豚熱・鳥インフルエンザの防疫支援活動
15	岐阜県	一般社団法人 岐阜県土木工業会	高病原性鳥インフルエンザ防疫活動について
16	宮崎県	高鍋地区建設業協会	鳥インフルエンザに係る防疫活動
17	宮崎県	串間市建設業協会	鳥インフルエンザに係る防疫活動
18	栃木県	一般社団法人 栃木県建設業協会 芳賀支部	水防伝達訓練及び旧芳賀建設会館を使った火災・震災対応訓練
19	群馬県	一般社団法人 群馬県建設業協会 館林支部	防災訓練の実施
20	山梨県	一般社団法人 塩山建設業協会	地域との相互協力による合同防災訓練
21	岐阜県	一般社団法人 岐阜県西濃建設業協会	防災訓練及び水防訓練への参加、防災啓発活動
22	鹿児島県	株式会社 前田建設	地域ぐるみの避難訓練
23	大阪府	西田工業 株式会社 大阪本店	中津万博（大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 プログラム 共創チャレンジ）
24	栃木県	一般社団法人 栃木県建設業協会 鹿沼支部	「鹿沼さつきマラソンクリーンアップ作戦」の実施
25	石川県	一般社団法人 金沢建設業協会	クリーン・ビーチいしかわ
26	宮城県	株式会社 太田組	SDGsに基づく環境美化活動や地域の活性化
27	栃木県	岩澤建設 株式会社	道路の美化清掃活動
28	群馬県	上原建設 株式会社	清掃ボランティア活動
29	山梨県	植野興業 株式会社	甲州市塩山東公民館 草刈り・清掃

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
30	山梨県	富士島建設 株式会社	地域環境美化活動（黒沢川落下防止柵塗替え）
31	岐阜県	内藤建設 株式会社	六条南公園、岐阜駅前の毎月のボランティア活動
32	滋賀県	株式会社 大野組	継続的な地域貢献活動
33	兵庫県	株式会社 大城工業所	毎月の地域一斉清掃活動
34	兵庫県	三宅建設 株式会社	クリーン活動
35	岐阜県	一般社団法人 揖斐建設業協会	継続的な献血活動
36	北海道	丸彦渡辺建設 株式会社	豊平小学校 側溝清掃
37	岩手県	県北緑化 株式会社	長年に亘る地域の交通安全・防犯活動への尽力
38	岩手県	株式会社 佐藤組	地元支援学校・支援学級等の生徒との協働活動
39	山形県	小白川建設 株式会社	豪雪時における児童の安全確保のための除排雪作業
40	富山県	塩谷建設 株式会社	福祉施設誘致による地域コミュニティの創造
41	富山県	株式会社 藤井組	長年にわたる子ども110番の家
42	大阪府	株式会社 銭高組 大阪支社	献血推進活動
43	青森県	株式会社 中屋敷建設	地域資源を再活用した国内資源肥料の利用拡大

広報活動事例

No.	都道府県	協会・企業名	活動内容
44	山梨県	一般社団法人 甲府地区建設業協会	建設産業出前授業
45	山梨県	一般社団法人 身延建設業協会	小学校での建設機械等の乗車体験会
46	長野県	一般社団法人 長野県建設業協会 青年部会	中学校体験学習・防災学習会の開催
47	静岡県	一般社団法人 静岡建設業協会	親子現場見学会の開催
48	三重県	一般社団法人 三重県建設業協会 志摩支部	2024 in shima 建設フェスタ&商工会まつり
49	石川県	一般社団法人 羽咋都市建設業協会	地域イベントで建設業の役割をPR
50	福井県	一般社団法人 若狭地区建設業協会 建設青年委員会	イメチェンイルミ2024inわかさ
51	福島県	株式会社 オオバ工務店	継続的な建設業の魅力発信活動とヘルメット寄贈
52	三重県	株式会社 竹島建設	次世代の若者へ建設業に対する理解と建設業の必要性、魅力、興味を発信するために
53	大阪府	戸田建設 株式会社 大阪支店	トンネルが結ぶ！ふれあいの輪
54	兵庫県	福井建設 株式会社	働く車見学会の開催
55	山口県	株式会社 井原組	中高生への建設業の魅力を伝える出前事業
56	鹿児島県	淵脇建設 株式会社	国分小学校『しごと村』
57	富山県	株式会社 斉藤組	SNSによる建設業や自社の魅力UP発信活動
58	栃木県	一般社団法人 栃木県建設業協会 日光支部	除雪カードの作成・配布
59	愛知県	株式会社 加藤建設	オリジナル絵本による建設業のイメージアップ
60	富山県	安達建設 株式会社	アニメCMによる建設業界及び自社の広報

事例
1

災害復旧活動

福島県

令和7年2月の福島県会津豪雪における除排雪活動

(一般社団法人 福島県建設業協会 若松支部)

令和7年2月の強烈な立春寒波は日本に約一週間停滞し、日本海側に近い福島県会津地方にも記録的な大雪をもたらした。会津地方の中心地である会津若松市では、2月5日未明から雪が降り続き、7日午前11時の積雪深は121cmとなり、平成22年12月に観測した115cmを上回り、昭和28年の統計開始以来過去最大の積雪深を観測した。

2月5日15時49分には大雪警報が発令され、磐越自動車道や国道49号では予防的通行止めを開始し、大粒の雪が絶え間なく降る中深夜から懸命な除雪を実施したが、ほとんどの道路で除雪が追い付かず、堆積した雪や氷結化した路面でスリップやスタックする車も相次ぎ、道路脇に寄せられた雪で行き違いできない個所や片側2車線の道路が1車線になる区間も多数発生し、著しい交通渋滞や救急搬送の遅れなど、市民生活に大きな支障を与えたほか、屋根からの落雪により尊い命が失われた。

このような中、福島県建設業協会若松支部の会員企業16社は、2月7日に福島県会津若松建設事務所長から災害協定に基づく支援要請があったことを受け、地域住民の一刻も早い「安全・安心」を確保するため、支部長の指揮下のもと、会津若松建設事務所や会津若松市役所の道路管理部局に対し積極的な提案を行いながら、建設業協会本部や会員以外の企業にも協力を求めるなど、唯一無二の地域の守り手としての揺るぎない使命感のもとで、主要幹線道路や第二次救急医療病院へのアクセス道路、生活上の支障のある狭隘道路等を優先に、昼夜の区別なく集中的な除排雪を進めた。

また、既存の2箇所を除雪場のほか、臨時に新設された3箇所の除雪場の運営（交通誘導、雪寄せ）を受託し、会津地方では不足していたバックホウ（0.7m³）4台を中通り地方（郡山市）から手配し、途切れることのない除雪運搬車を誘導しながら、臨時除雪場の円滑な管理運営に貢献した。

さらに、福島県土木部長から全県的な広域支援の要請があったことを受け、福島県建設業協会本部では2月10日から2月15日までの6日間、中通り地方の各支部の会員企業25社から延べ93台の4tダンプをオペレーター付きで派遣した。当支部ではこれらの派遣部隊を指揮下におさめ、幹線道路の除排雪作業を行い、迅速な除排雪作業に貢献した。



夜間除排雪(主要地方道会津若松裏磐梯線)



排出場運営(県立会津病院跡地)



福島民報新聞(R7.2.8)

事例 2 災害復旧活動

石川県

令和6年9月奥能登豪雨における災害復旧支援活動（一般社団法人 石川県建設業協会）

令和6年9月21日から23日にかけて発生した令和6年9月能登半島豪雨において、石川県建設業協会は22日に「奥能登豪雨災害対策本部」を設置し、翌日から県内9地区協会と連携、復旧支援活動を開始した。

各地区協会のうち、被害が大きかった奥能登地域の鳳輪、珠洲の2地区協会は、管内での復旧活動に加え、被害がほとんどなかった金沢、七尾鹿島、羽咋郡市、河北郡市、白山野々市、小松能美、加賀の7地区協会の会員企業を中心に道路啓開、河川護岸補修、立木処理等の復旧支援活動に取り組み地域の安全安心を守る、建設業団体として災害復旧に貢献した。



道路啓開(崩土除去)



民地内の堆積土砂除去(県道宇出津町野線沿線)

事例 3 災害復旧活動

滋賀県

米原市伊吹地先土砂災害 災害復旧支援活動

(一般社団法人 滋賀県建設業協会 長浜支部)

令和6年7月1日の大雨により、伊吹山を水源とする勝山谷川の upstream から押し寄せた土砂で勝山谷第1堰堤が埋まり、溢れた土砂が土石流となって米原市伊吹地先の集落や県道山東本巣線・山東伊吹線及び市道に流出し1m以上の堆積土が認められ、米原市が緊急安全確保（警戒レベル5）を発令したことから、滋賀県長浜土木事務所は長浜支部に対し応援協力の要請をした。同支部から被災地域近隣会員らが選定され流出土砂や堆積土砂の撤去作業に出勤し、迅速に対応した。同15日、25日にも大雨によって同じく勝山谷川から土砂流出が発生したため、同様に出勤した。

また、滋賀県の要請によって国土交通省から土砂災害専門家（TEC-FORCE高度技術指導班）が現地入りし、復旧に向けた調査や対策への助言があったことから、長浜土木事務所は応急土砂止工（強靱ワイヤーネット等）の設置を緊急対策として要請、長浜支部で対応した。

この土砂災害による応急復旧活動への貢献が認められ、長浜支部には滋賀県長浜土木事務所長と滋賀県湖北環境事務所長の連名による感謝状が贈呈された。



米原市伊吹地先集落への流出土砂の撤去作業



勝山谷川の堆積土砂の撤去作業(進入路設置工含む)

事例
4

災害復旧活動

島根県

大社日御碕線の道路崩落への応急対応

(一般社団法人 島根県出雲地区建設業協会)

令和6年7月、主要地方道 大社日御碕線が豪雨により路面が崩落し通行不可能になり、出雲市内の日御碕地区が孤立状態となったため、島根県出雲地区建設業協会は災害協定に基づき、バリケード等の設置や交通整理など24時間体制で対応に当たった。

また、県から大型土嚢600袋の要請があり、休日返上して会員企業が分担して製作を行った。

その後、段階的な仮設迂回道路の整備を行ったことで、12月に大型車両を含む全ての一般車両が通行可能となった。



24時間体制で仮設迂回道路を整備



仮設迂回道路の舗装を施工

事例
5

災害復旧活動

宮崎県

延岡市浦城町の土砂災害対応

(延岡地区建設業協会)

令和6年10月23日未明に発生した延岡市浦城町の土砂災害に対して、発生箇所管内を所管とする延岡地区建設業協会が地域総合メンテナンス業務として24時間体制で従事し、23日から26日の4日間で4社(延べ35名)が土砂災害の被害者の捜索並びに救出活動を実施した。また、本捜索・救出活動に従事した企業に対し、延岡土木事務所より感謝状を授与された。



発生現場



捜索・救出活動

事例
6

災害復旧活動

愛知県
三重県内の豪雪に伴う除雪応急復旧活動

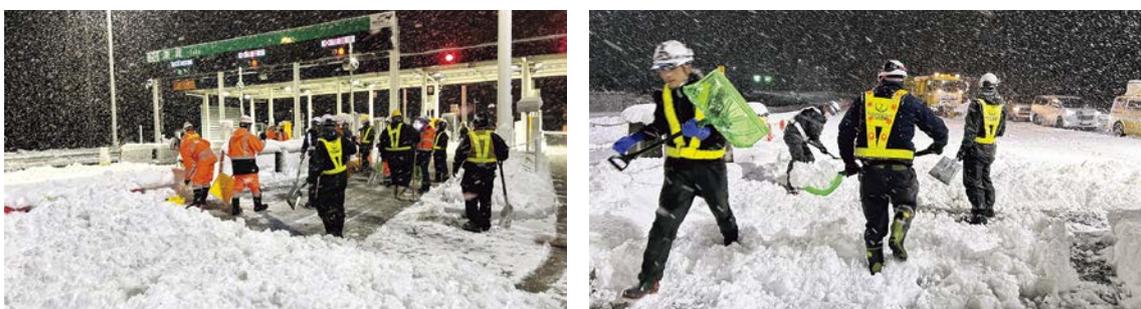
(株式会社 近藤組)

令和7年2月7日から降り始めた大雪に伴い、三重県内においても高速道路や一般道の予防的通行止めが行われた。

この為、中日本高速道路(株)名古屋支社より弊社に応急復旧業務の協定に基づく応援要請があり、2月7日夜から出勤に備えて体制を整え、会社内で待機をした。

翌日2月8日夕方に出動要請があり、三重県内の桑名保全サービスセンターに集合し、そこから東員インター料金所に移動し、人力の除雪作業により料金所を通行する為の復旧作業を行い、22時頃に降雪が収まってきた地区から順次予防的通行止めが解除され、応急復旧業務も終わることができた。

上記の応急復旧業務が評価され、弊社は令和7年4月25日にNEXCO 中日本 名古屋保全サービスセンター事務所長様より、冬期交通の確保に向けた取り組みへの協力ということで感謝状が送られた。



除雪作業

事例
7

防疫活動

岩手県
高病原性鳥インフルエンザ防疫活動

(一般社団法人 岩手県建設業協会 盛岡支部)

協会盛岡支部は、令和7年1月に管内で発生した3例の鳥インフルエンザについて、協定に基づき、採卵鶏、餌・糞、防護服などの運搬及び埋却作業の防疫対応を実施した。

【対応期間】 ①令和7年1月2日～1月7日 ②令和7年1月11日～1月17日 ③令和7年1月22日～1月31日

【殺処分数】 ①12万羽、埋却数(フレコンバック) 794袋
②40万羽、埋却数(フレコンバック) 2,578袋
③66万羽、埋却数(フレコンバック) 4,918袋

【対応会員数】 ①6社延べ132人 ②16社延べ368人 ③23社延べ732人



埋却

運搬

事例

防疫活動

8

岩手県

豚熱による防疫活動

(一般社団法人 岩手県建設業協会 久慈支部)

令和6年5月28日午前10時、岩手県北広域振興局土木部より管内の養豚農場において豚熱の疑いのある豚が発熱後死亡したことから現在検査中。検査結果は午後4時頃判明予定、検査結果を受けて会議、方針が決まるため現地では先行して準備を行う。現地確認のため岩手県との「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき協力要請があった。

埋却地は同施設内の雑種地で雑木林であったため、測量、伐木、伐根、試掘、仮設道路準備等、埋却溝掘削の準備とともに、夜間から始まった処分豚の運搬作業にあたった。長期間にわたる防疫作業のため、久慈支部会員全社に協力を求め、バックホウ、キャリアダンプ等、使用重機は20台、延べ1,228人が従事し、発生から25日目となる6月21日に埋却作業が終了。最終的な処分頭数は19,780頭であった。

作業にあたり埋却溝の湧水や溜水（雨水、血液・体液など）、近隣からの苦情、腐敗臭の発生、急な気温上昇による熱中症対策など予期せぬ事象があり柔軟な対応を求められた。

久慈支部では迅速な初動態勢がとれるよう、常に災害対応組織力の強化を心掛けており、今回の防疫作業においても発揮することができたと考えている。



殺処分豚の運搬



埋却溝 掘削

事例

防疫活動

9

岩手県

高病原性鳥インフルエンザ防疫活動

(一般社団法人 岩手県建設業協会 二戸支部)

協会二戸支部は、令和7年1月に管内で発生した鳥インフルエンザについて、協定に基づき、殺処分した雛鳥、餌・糞、防護服などの運搬及び埋却作業の防疫対応を実施した。

【対応期間】 令和7年1月5日～1月8日

【殺処分数】 5万羽

【対応会員数】 18社延べ127人



埋設状況



石灰散布

事例 10 防疫活動
茨城県
豚熱防疫活動

(一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部)

令和7年3月31日、茨城町の養豚場で豚熱の感染が確認された。

茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定」に基づき、重機等資機材の手配、水戸支部土木委員会11社、延べ18名の作業員を、防疫活動のため現地に派遣した。

防疫活動は、3月31日～4月1日まで行われ、処分するための埋却地掘削、埋却物運搬・埋却・埋戻し、片付け等の作業を実施した。



埋戻し後、土の上に消石灰を散布



殺処分した豚を投入

事例 11 防疫活動
茨城県
八千代町鳥インフルエンザ防疫活動

(一般社団法人 茨城県建設業協会 常総支部)

令和6年12月29日に、結城郡八千代町の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生した(108万羽)。

茨城県建設業協会常総支部は、県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定書」に基づき、茨城県農林水産部畜産課・常総支部役員・地区会員が八千代町役場にて打ち合わせを行い、埋却作業を委託された。同日午後にはバックホウ・敷鉄板の搬入と埋却のための準備に入った。

翌30日に、農林水産部畜産課・茨城県建設業協会会長・各支部長・協会本部・常総支部役員が常総支部にて打ち合わせを行い、また、同日の午前より現地にて支部会員が埋却作業に入った。

農場と埋却地の距離が6kmと離れており、積込や移動に時間を非常に要したが、農場内の鶏・飼料・卵の処分の埋却作業を常総支部内にてすべて終えることができた。

12月29日の発生から令和7年1月18日までの約20日間、茨城県農林畜産課をはじめとする関係各所と連携を図りながら、年末年始の多忙な時期ではあったが常総支部会員が一丸となり、延べ227名が埋却作業に従事した。今後も地域社会の守り手、砦として責務を全うできるよう、役割を果たしていきたいと思う。



令和7年1月22日、前橋市内の畜産農家から群馬県に豚熱の疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月23日に豚熱が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時の貿易業務に関する基本協定」、「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

前橋支部では、社会的責任において群馬県との協定に基づき、会員企業はローテーションを組み埋却溝掘削や殺処分した豚の運搬・埋却などに従事した。

1月23日23時から殺処分、埋却地の掘削、目隠しフェンスの設置を開始。従事企業13社から作業員延べ184名を動員。2月1日に作業を完了した。

本会は、災害対応組織力の強化を掲げており、今回の豚熱発生に対する防疫作業においても、会員企業は連日連夜、懸命に防疫作業に取り組んだ。

延べ184人が防疫作業に従事した (群馬建協提供)



10例目の豚熱防疫業務完了

群馬建協 延べ66社、184人が作業

群馬県建設業協会(青柳剛 会長)の前橋支部(泉野高志 深さ4ft) 2本の掘削と、目隠しフェンス(約220ft)の設置を始めた。2本目の埋却作業を1日に終えた。豚熱溝は長さを41ftに伸ばした。は同市の養豚場で1月23日に対策本部を通じて県との連携発生。5529頭の豚を県とを密にし、1日までに埋め戻す協定に基づき殺処分した。し作業や承水路溝掘り、石灰発生から10日間の総従事者数 散布などが完了した。は延べ66社、184人。現場 作業に従事した企業は次の通り。

▽泉野建設▽塩原建設▽宮下工業▽月白工業▽橋元興業分した豚の運搬・埋却などに当った。

群馬建協と前橋支部はCSF対策本部を同23日に設置業。

建設工業新聞 R7.2.5



埋却物投入状況



農場からの搬出

豚熱対応に延べ66社
群馬建協

群馬県建設業協会(青柳剛 会長)は、1月に前橋市で発生した豚熱の防疫作業に会員企業を派遣、全作業が完了した2月1日までに延べ66社184人が尽力した写真。

1月22日の発生通報、23日の豚熱確定後、24日には群馬県から建協に協力依頼があり、同日から重機を投入して現場作業を開始していた。作業は全9日にわたり、対象5529頭を、重機を使用して掘削した2カ所の溝に埋立処分した。

作業に当たった企業は▽泉野建設▽塩原建設▽宮下工業▽月白工業▽橋元興業▽須田工業▽松島工業▽鶴川興業▽立見建設▽大野工業▽三原工業▽志村工業▽池下工業となる。

建設通信新聞 R7.2.6

事例 13

防疫活動

千葉県

大規模鳥インフルエンザ発生に伴う防疫活動

(一般社団法人 千葉県建設業協会)

令和7年1月11日に本協会銚子支部は、銚子市内で高病原性鳥インフルエンザに罹患した疑いのある採卵鶏が確認されたという情報を受け、「家畜伝染病発生時における防疫対策業務に関する基本協定」に基づき、ただちに人員配置や資機材等の手配など防疫措置の準備体制を整えた。そして、翌12日に疑似家畜であることが判明したことを受け、感染拡大防止のため、現地調査、掘削及び埋設作業等に尽力した。

しかし、この一例だけにとどまらず、銚子市では1月15日、19日（2例）、24日、28日、旭市では1月16日、18日、19日、28日、29日、31日、2月1日、匝瑳市では1月28日、31日と県内で高病原性鳥インフルエンザが15例も立て続けに発生した。なかには1日の間に複数の農場で発生するケースもあるなど、急激な速度で3市管内の農場に拡大した。

この感染拡大に伴い、銚子支部、八日市場支部、香取支部の3支部が地域の守り手として、強い連帯感をもって防疫作業にあたった。今回の処分対象が約300万羽を超え、令和2年に本県で発生した処分羽数450万羽という事例に迫る未曾有の危機だったが、3支部及び関係者の素早い対応により、被害を抑え、地域の安全に大きく貢献した。

結果、3月まで防疫作業は続き、地域の守り手という強固な意識のもと、支部会員は2か月間という期間的にも類を見ない防疫対応に尽力した。

また、県農林水産部畜産課からも年明けからの立て続けの防疫対応に、本協会会員が素早く対応したことについて、謝意が示された。



鳥インフルエンザ対応(銚子支部)



銚子支部の防疫作業(千葉県建設業協会提供)



八日市場支部も対応に当たった(千葉県建設業協会提供)

千葉県建設業協会(石井良典会長)の銚子、八日市場、香取の3支部は、1月12日以降、県内で立て続けに15例発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対応に当たった。3支部の会員企業や関係者らは、県との防疫協定に基づき、同日から現地調査や殺処分に伴う

千葉建設協会の銚子、八日市場、香取の3支部は、1月12日以降、県内で立て続けに15例発生した高病原性鳥インフルエンザの防疫対応に当たった。3支部の会員企業や関係者らは、県との防疫協定に基づき、同日から現地調査や殺処分に伴う

千建協 県が迅速対応に感謝 鳥インフルエンザの防疫措置

千葉県建設業協会の銚子支部は、令和7年1月11日に、銚子市内で高病原性鳥インフルエンザに罹患した疑いのある採卵鶏が確認されたという情報を受け、ただちに人員配置や資機材等の手配など防疫措置の準備体制を整えた。そして、翌12日に疑似家畜であることが判明したことを受け、感染拡大防止のため、現地調査、掘削及び埋設作業等に尽力した。

しかし、この一例だけにとどまらず、銚子市では1月15日、19日（2例）、24日、28日、旭市では1月16日、18日、19日、28日、29日、31日、2月1日、匝瑳市では1月28日、31日と県内で高病原性鳥インフルエンザが15例も立て続けに発生した。なかには1日の間に複数の農場で発生するケースもあるなど、急激な速度で3市管内の農場に拡大した。

この感染拡大に伴い、銚子支部、八日市場支部、香取支部の3支部が地域の守り手として、強い連帯感をもって防疫作業にあたった。今回の処分対象が約300万羽を超え、令和2年に本県で発生した処分羽数450万羽という事例に迫る未曾有の危機だったが、3支部及び関係者の素早い対応により、被害を抑え、地域の安全に大きく貢献した。

結果、3月まで防疫作業は続き、地域の守り手という強固な意識のもと、支部会員は2か月間という期間的にも類を見ない防疫対応に尽力した。

また、県農林水産部畜産課からも年明けからの立て続けの防疫対応に、本協会会員が素早く対応したことについて、謝意が示された。

本協会の活動を通じて、地域の活性化や防災意識の向上に貢献している。今後も、地域の発展と安全のために尽力してまいります。

千建協 会長 石井 良典

日刊建設新聞 R7.3.4

に、スピード感と連帯感を持って実施した。3支部の迅速な防疫作業に対し、県農林水産部畜産課は謝意を示した。

今1例目の高病原性鳥インフルエンザは2024年10月に香取市で発生した。1月12日以降に県内で発生した高病原性鳥インフルエンザは、銚子市6例、旭市7例、匝瑳市2例(今季2〜16例目)。千葉県建設業協会によると、殺処分対象は300万羽を超え、20年度の450万羽に迫る事態だったという。県は2月27日、2〜16例目の防疫措置がすべて完了したと発表した。

八日市場支部も対応に当たった。千建協八日市場支部提供

日刊建設工業新聞 R7.3.7



鳥インフルエンザ対応(八日市場支部)

新潟県
豚熱・鳥インフルエンザの防疫支援活動

(一般社団法人 新潟県建設業協会 新発田支部)

令和6年8月14日、新発田市の養豚場において、県内初感染となる「豚熱（CSF）」の発生が確認され、新潟県では豚熱対策本部を設置して、対象施設のブタ（約500頭）の殺処分や施設の消毒等の防疫措置を決定した。

新潟県との災害協定に基づく応援要請を受け、直ちに会員会社が施設敷地内に設けられた埋却予定地で殺処分豚の運搬・埋却作業の体制を整えた。

作業には会員33社（正会員23社、準会員10社）が従事し、建設機械等をはじめ多くの資機材を投入して、夜間の埋却作業に努めた結果、8月17日には全埋却物の投入及び埋戻しが完了した。

また、令和6年11月5日、胎内市の養鶏場において、「高病原性鳥インフルエンザ」の発生が確認され、新潟県では鳥インフルエンザ対策本部を設置して、対象施設の鶏（約34万羽）の殺処分や消毒ポイントの設置等の防疫措置を決定した。

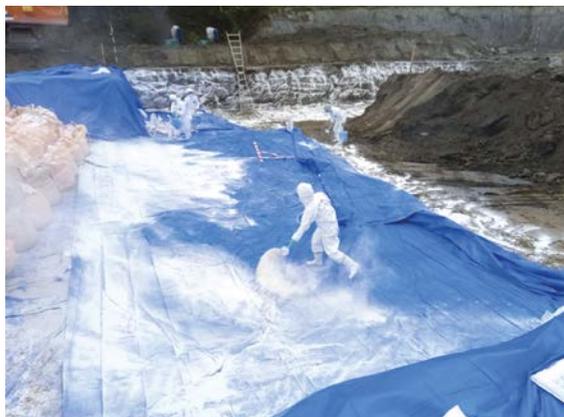
新潟県との災害協定に基づく応援要請を受け、直ちに会員会社が施設敷地内に設けられた埋却予定地の伐木・整地に取り掛かり、殺処分鶏の運搬・埋却作業の体制を整えた。

作業には会員33社（正会員23社、準会員10社）が従事し、建設機械等をはじめ多くの資機材を投入して、24時間体制で埋却作業に努めた結果、11月15日には全埋却物の投入及び埋戻しが完了した。

同支部では、今後も地域建設業の組織力を生かして、こうした活動に積極的に取り組むことで、地域の安全・安心に貢献したいと考えている。



豚熱の防疫支援活動



鳥インフルエンザの防疫支援活動

事例
15

防疫活動

岐阜県
高病原性鳥インフルエンザ防疫活動について

(一般社団法人 岐阜土木工業会)

令和6年11月19日、岐阜県において令和6年度で初めての高病原性鳥インフルエンザが本巣市において確認された。このため、県からの要請により、岐阜県建設業協会の正会員で、本巣市を所管する岐阜土木工業会は殺処分される鳥、約1万5000羽を埋却することで準備を進めたところ、地下水汚染の点から鳥を焼却することになった。

しかし、鶏舎が住宅地に近く、また住宅地から離れた場所の選定も困難であったが、最終的には河川敷にて焼却することにした。

焼却作業は、平成22年11月に鳥根県で実施して以来、国内2例目である。国の担当者を含めて経験がない作業員が従事し、かつ、強風の中の焼却であったため、細心の注意を払い、夜間の監視を含め昼夜問わず作業を実施し、9日間で完了した。

今回の焼却作業は会員企業で働く人の懸命な作業はもちろんのこと、「地元企業が地域をしっかり守る」という強い地域貢献の意識があったからこそ、このような結果に繋がったと考えている。



焼却炉へトナパック投込み



焼却の状況

鳥インフル 岐阜、移動式焼却炉で処理

本巣の殺処分養鶏場に埋めず

19日に本巣市内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが確認された問題で、県は21日、殺処分した採卵鶏全約1万5千羽について、当初予定していた養鶏場内での埋却から、移動式焼却炉による処理に変更すると発表した。埋却予定場所から地下水が出て、周辺環境への影響を考慮したため、移動式焼却炉による処理に決めた。移動式焼却炉による処理は、県内初で全国2例目。

当初は作業時間を早くできる点で、養鶏場敷地内での埋却を検討していたが、地下水が出たことで、周辺への環境汚染の恐れがあったために変更した。移動式焼却炉は、国から借り受け、本巣市の根尾川河川敷の周辺に民家がないエリアで作業する。23日から焼却炉を組み立て、25日に焼却を開始し、10日程度で終わる見込み。発生した灰は産業廃棄物として、業者が最終処分する。

21日は、職員らが焼却の準備として、殺処分したニワトリを入れた袋をプラスチックの密閉容器に詰め、容器は外れない仕組みになっており、ウイルスが拡散するリスクがないとされている。消毒を含めた防疫措置は、22日朝までに完了する見込み。

(稲葉亮)

岐阜新聞 R6.11.22

事例
16

防疫活動

宮崎県

鳥インフルエンザに係る防疫活動

(高鍋地区建設業協会)

令和6年度の県内1例目令和6年12月2日川南町にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする高鍋地区建設業協会が、迅速に防疫を務めた。2日から4日の3日間で約3.5万羽を5社（延べ13名）で埋却作業を実施した。



作業状況(埋却)



作業状況(消石灰散布)

事例
17

防疫活動

宮崎県

鳥インフルエンザに係る防疫活動

(串間市建設業協会)

令和6年度の県内2例目令和7年1月10日串間市にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする串間市建設業協会が、迅速に防疫を務めた。10日から12日の3日間で約3万羽を10社（延べ23名）で埋却作業を実施した。



作業状況(運搬)



作業状況(消石灰散布)

芳賀支部 水防伝達訓練

芳賀支部、真岡土木事務所によるWebオンライン会議システムを使用した「水防伝達訓練」を実施した。この訓練は平成27年より実施しているものである。訓練内容として、大型で非常に強い台風の接近により栃木県内各地で未明より大雨が降り、大雨洪水警報が発令され「栃木県災害時の応急対策業務の実施に関する協定」に基づき、真岡土木事務所より管内のパトロールの依頼を受けた芳賀支部が、指示事項に対して「道路・河川等管理情報システム」(GPSによる位置情報)を可動させ、情報伝達を行うものである。



支部員から「道路・河川等管理情報システム」に送信された位置情報付きの写真



支部員から現地に送信された位置情報付きの写真データと「異常なし」の報告が「道路・河川等管理情報システム」に自動的に一元集約され、芳賀支部と真岡土木事務所で行った状況確認

「旧芳賀建設会館」を使った火災・震災対応訓練

栃木県建設業協会芳賀支部は、「地域の安全・安心を守る」との理念に基づき、新芳賀建設会館完成に伴い取り壊される「旧芳賀建設会館」を、芳賀地区広域行政組合消防本部が実施する「実際の建物での火災・震災対応訓練」に提供した。

この訓練は、芳賀郡1市4町の各消防署・分署から約50名の隊員が参加する大規模なもので、令和6年8月11、12、17、18日の4日間、煙を充満させた建物の中での消火活動、屋外から屋内への捜索・救助活動、狭い空間からの救出活動など、普段の訓練施設とは違う、より実際の災害・火災現場に近い臨場感あふれる実践的な訓練が行われた。参加した隊員からは、「実際の建物を使用した訓練は、なかなか出来るものではなく非常に貴重な経験となった」との感謝の言葉をいただいた。

今回の訓練では、地域消防隊員の技術力向上はもとより、地域の防災力向上にも貢献することができた。「旧建設会館」の訓練への提供は、「地域の守り手」としての建設業協会の役割を十分に果たすことができた。



消防・救助訓練 実施状況

事例
19

群馬県
防災訓練の実施

(一般社団法人 群馬県建設業協会 館林支部)

この訓練は隔年で開催されており、館林支部では、青年経営者部会員を中心に毎回参加しており、訓練では、他団体との連携を図りながら道路復旧などライフラインの確保の実践を行い、市民への防災に対する意識の高揚と知識の向上に努めるとともに建設業への理解も深めている。



ショベルローダ復旧作業



グレーダー復旧作業

事例
20

山梨県
地域との相互協力による合同防災訓練

(一般社団法人 塩山建設業協会)

塩山建設業協会では、地震、風水害、雪害、その他の災害が発生し又は、発生するおそれがある場合において救出支援を行うため、「東山梨地区広域防災の相互協力に関する協定」を日下部警察署・東山梨消防本部・甲州市・山梨市と結んでいる。

平成28年7月の締結以降連携の強化と防災力向上を目的に毎年、合同訓練を行っている。



橋梁復旧作業



車両からの救出作業

事例
21

岐阜県

防災訓練及び水防訓練への参加、防災啓発活動（一般社団法人 岐阜県西濃建設業協会）

1. 大垣市防災訓練への参加

大垣市防災訓練に平成4年8月30日に参加してから継続参加している。訓練内容は令和元年まではユニック車で廃材を吊り上げ、荷台に乗せる倒壊物除去訓練を行った。コロナ禍になり、令和2年から4年は訓練が中止となったが、令和5年からは体験型の防災イベントとして再開され、当協会も参加を再開した。

令和6年は11月24日（日）に大垣市立青墓小学校でおおがき防災フェス2024が開催され、工事作業車の展示・試乗体験、災害出動パネルの展示（県協会作成のパネルを使用）、横断幕（能登半島地震の被災状況をプリントしたもの）の展示と参加した児童に全国建設業協会作成の建設学習帳を配布した。

2. 大垣市水防訓練への参加

大垣市水防訓練に平成7年6月4日に参加してから継続参加している。訓練内容は大型重機を使用して大型土のう工の演習を行っている。コロナ禍で令和2年から4年まで中止となり、令和5年から再開され、当協会も参加を再開した。令和6年は5月26日（日）に大垣市野口町地内の杭瀬川スポーツ公園西で開催され、大型重機2台を使用し、大型土のうを12個製作、設置する訓練を披露した。

3. 防災啓発活動

平成3年に大垣市内のイベント会場で当協会の建築委員会が中心となり、家屋の耐震相談等の防災啓発活動を開始した。以来、活動内容を変えながら継続してイベント会場での防災啓発活動を継続している。令和6年は11月3日（日）の大垣ストリートフェスティバルの会場で岐阜県の地震体験車による地震体験（大垣消防組合の協力）、防災クイズ、防災グッズの配布を行った。

(成果)

防災意識の向上に寄与するとともに、継続活動することで建設業及び建設業協会の名前をアピールすることにつながっている。



水防訓練



防災クイズの参加者

事例
22

鹿児島県
地域ぐるみの避難訓練

(株式会社 前田建設)

この活動は、平田保育所様と災害時の避難支援など協力関係を令和4年7月20日に結んだことから始まり、合同避難訓練として令和4年12月13日に第1回目を行った。

地震後の津波を想定した津波避難訓練は、園児64名・保育士14名・前田建設10名の計88名の参加者。近隣の高台（標高30m）まで、交通誘導や物資の運搬、子供たちの避難援助、複数の乳幼児を乗せた大型ベビーカーの牽引援助などを行った。

令和5年度は、さらに地域住民の青空自治会にも声をかけ賛同していただき、令和5年12月13日に3者合同避難訓練を行った。園児63名・保育士15名・平田青空自治会10名・前田建設14名の計102名が参加。歩けない乳幼児からご高齢者まで合わせて100名を超える大規模な合同訓練となった。平田保育所とは2回目ということで連携が迅速に行え、前年の経験が活かされており、設定していた避難完了時間もクリアすることができ、「継続して取り組んでいる効果」を実感した。初めて参加した地域の方からも、防災意識の向上と避難ルートの確認・体験が出来た事は「貴重な体験になった。防災の支援は心強い」と反響を頂いた。

令和6年度は、令和7年3月12日に第3回目を開催。再び平田保育所と平田青空自治会との3者合同避難訓練を行った。前年までは津波避難訓練を行っていたが、今回は地震に伴った火災からの避難を想定。園児60名・保育士17名・平田青空自治会8名・前田建設13名の計98名。火災発生時の初期消火を前田建設と地域住民で実施。その間には、地元高校のグラウンドまで約200mの避難路を園児や地域住民の避難を支援。初期消火係や交通整備係、避難支援係と役割分担を行う。避難路は若干の勾配もあり、ご高齢の自治会会員は不安を抱えており手をつなぎ安全確保、また保育所からは乳幼児を乗せた大型ベビーカーを押すなど支援した。

津波や火災などの自然災害時に迅速に対応できるように、「地域ぐるみの避難訓練」を今後も継続していき、地域住民と共に「地域の防災強化」に繋がるよう取り組んでいく。



合同避難訓練



消火訓練

事例
23

大阪府
中津万博(大阪・関西万博 TEAM EXPO 2025 プログラム 共創チャレンジ)
(西田工業 株式会社 大阪本店)

コロナ禍で地域のイベントがすべてなくなり、地域の楽しみや多世代の交流が無くなってしまった子供達のために何かできる事はないか。そんな思いを持った地域の住人・企業が実行委員会を立ち上げ中津万博を開催した。

「未来の中津をかんがえよう」をメインテーマとして、自治体や企業によるブース出展、キッチンカーによる飲食コーナー、地域の祭りで使用していたゲームを利用したゲームコーナーなど子供達だけではなく大人でも楽しめるイベントとして多数の来場をいただいた。

開催を重ねるにつれ、小学生の課外授業及び発表会の開催（テーマ：まちの幸福論）、大学・専門学生による音楽ライブステージ・ゲームコーナー・会場装飾などイベントを盛り上げる企画・運営のカリキュラムも兼ねた実証実験、防災のエキスパートと巡る防災マップツアー、来場者みんなで祝う人前結婚式などコンテンツも多種多様になった。

また、規模が大きくなるのに合わせて、地域住民・企業ボランティアに加え、150名を超える学生ボランティアも当日の運営として参加するなど関わる人も多世代に広がりを見せている。

会場についても、メイン会場である中津中央公園以外にも近隣の飲食店や企業が中津万博の開催期間に合わせて様々なイベントを共催するなど、まち全体を盛り上げるイベントとして成長している。

弊社としては、中津万博実行員会の立上げ時から企画・運営に参画すると共に、ライブアートを中津アートフェスティバル実行委員会と協力し開催。また、自社ビルでのアート作品の展示や、一部をパブリックスペースとして開放し、物販（クラフトビール・地域特産品）、トークやメタバースのイベント開催・WEB配信など、自社ビル（西田ビル）を活用し、「地域に開く建設業」として様々な方々と一緒になって地域活性化に取り組んでいる。



中津万博ポスター



メイン会場の様子



西田工業テント



小学生課外授業



トークイベント

事例
24

栃木県
「鹿沼さつきマラソンクリーンアップ作戦」の実施

(一般社団法人 栃木県建設業協会 鹿沼支部)

「鹿沼さつきマラソンクリーンアップ作戦」の実施

実施日：令和6年5月10日

鹿沼市主催の鹿沼さつきマラソン大会には毎年多くのランナーが鹿沼市を訪れるため、参加者が安全に走れるよう、毎年開催前にコース周辺の清掃活動や安全点検を行っている。

「愛ロードとちぎ」

実施日：令和6年6月14日、8月9日、10月11日、12月13日、令和7年2月14日 計5回

安全で快適な道路環境の維持向上を図るため平成17年から清掃活動を推進している。



クリーンアップ作戦

事例
25

石川県
クリーン・ビーチいしかわ

(一般社団法人 金沢建設業協会)

- 1 夏季の海水浴シーズンを前に石川の海岸線583kmをきれいにする海岸愛護運動「クリーン・ビーチいしかわ」は、身近な環境ボランティアとして平成7年から実施されている。
当協会では平成27年度より、毎年100名を超える会員企業の職員及びその家族が清掃奉仕に参加している。
今年度は、金沢市健民海浜公園で行われた清掃奉仕に143名が参加した。
- 2 緑化を目的として昭和61年度より、金沢市に樹木を寄附しており、令和6年度で39回目となった。今年度は樹高10mのメタセコイアを1本寄贈し、11月6日に金沢城北市民運動公園で植樹式を開催した。



事例
26宮城県
SDGsに基づく環境美化活動や地域の活性化

(株式会社 太田組)

【環境美化活動】

当該企業では、例年6月と11月に会社前の植樹帯へ花を植える活動を行っている。かつては銀杏の落ち葉が積もる場所だったが、約25年前から少しずつ土の入れ替えを行い、花を植えてきた。現在では景観の一部として定着し、社員はもとより地域住民にとっても欠かせない存在となっている。今後もこの活動を継続する予定だ。

【地域活性化】

当該企業では、10年前よりクリスマスイルミネーションの設置を行っており、毎年12月上旬から1月中旬頃まで点灯している。中には、遠方から家族を連れて見に来られる方もいらっしゃるようだ。近年では、周辺企業等も空き地を活用してイルミネーションの設置を始める等、地域へ波及効果を及ぼしている。



花の植樹活動



イルミネーション活動

事例
27栃木県
道路の美化清掃活動

(岩澤建設 株式会社)

国土交通省、足利市と協定を結び弊社本社前の国道50号の歩道植樹帯を花壇として年間を通じて美化活動をしている。



除草作業

事例
28

群馬県
清掃ボランティア活動

(上原建設 株式会社)

弊社は下仁田町で創業し町に育てていただき、地域に根ざした企業である。微力ではあるが、地域の守り手としての自負もある。弊社が町に何かお役に立てる事、恩返しのような事、それは年1度の清掃ボランティアを実施する事と考えた。体制としては社員全員参加、自社トラック等を使用して臨み、平成25年に初めて実施し、コロナ禍の令和2年を除き11回実施している。

令和6年はジオパークの青岩公園内を刈り払い機、ブロワー、鎌、ノコギリ等を使用し雑木の伐採、公園の看板の設置斜面の草刈り、ゴミ拾いを実施した。

建設業者としてのノウハウを活かし地区の方、他のボランティア活動では出来ない、足場の悪い危険な河川地域内の木や、草などを伐採した。

ジオパーク協議会の方や近隣住民の方に喜んでいただき、また町の広報紙にも毎年その活動を紹介されている。訪れる観光客の方々に気持ちよく過ごしていただき、素晴らしい環境を守り続ける町に、微力ながら役立つ事が出来ればと考え今後も続けて参りたいと思う。



青岩公園ポケットパーク

上原建設様（五十嵐修代表取締役社長）により環境整備の一環として、川遊びやジオパークの見学でたくさんの方が訪れる「青岩公園」等の美化活動が行われました。
足場の悪い危険な河川区域内の木や草などを伐採していただき、公園の河原全体が見渡せるようにしていただきました。
お陰様で、訪問者や学校団体の受け入れなどが安全にできるようになりました。大変ありがとうございました。



広報しもにた R6.11月号掲載記事

(株)上原建設の地域貢献活動
「青岩公園」等環境整備活動

事例
29

山梨県
甲州市塩山東公民館 草刈り・清掃

(植野興業 株式会社)

甲州市塩山東公民館の公園内には鉄棒やブランコ・滑り台等があり普段から近隣の子ども及び保育園児がよく利用している。夏季は子どもたちが遊べなくなるほど雑草が生い茂り、館庭や通路、駐車場脇にあるツツジの枝が伸び、植え込みもはみ出すことから、公民館利用者の車の駐車や公園の利用にも支障をきたすため、当社では10年ほど前から草刈りやツツジの植え込みの剪定、及び周辺の川辺や歩道等の清掃を毎年夏季を中心に行っている。



清掃作業



作業を終えて

事例
30山梨県
地域環境美化活動(黒沢川落下防止柵塗替え)

(富士島建設 株式会社)

当社が地域環境美化活動〈落下防止柵（フェンス）塗替え〉を実施している黒沢川は、韮崎市内を流れる富士川水系塩川支流の一級河川である。昭和52年に河川兼用工作物管理協定を山梨県(河川管理者)及び韮崎市(道路管理者)が締結を行い、韮崎市は落下防止柵を設置・管理を行っているが、落下防止柵も経年劣化などにより塗布してあるペンキが剥げ落ち、錆も目立ち景観が損なわれている現況にあり、黒沢川沿いに位置する当社は、地域環境美化活動として、社員による黒沢川沿い落下防止柵（フェンス）のペンキ塗り替え作業を、令和4年6月（延長600m）、令和5年5月（延長400m）、令和6年11月（延長350m）の三ヶ年にわたり地域住民のご理解とご協力を頂く中で取り組んできた。

作業終了後には地域住民から「不快感が無くなり気持ちよく通学・通勤ができるようになった」、「爽やかに朝の散歩ができる」等々、感謝の意が伝えられている。今後においても地域の方々が、より過ごしやすく日常の営みを送って頂けるよう、積極的に活動していく計画である。



R6 活動状況



R4 地域住民と共同による活動状況

事例
31岐阜県
六条南公園、岐阜駅前の毎月のボランティア活動

(内藤建設 株式会社)

内藤建設では、平成19年より、社員による岐阜駅北口駅前広場と六条南公園（本社前）の清掃活動をしている。

また、岐阜駅北口駅前広場清掃は、毎月第3土曜日（令和6年10月より第3金曜日）6:45から実施している。六条南公園清掃は毎月第1土曜日（令和6年10月より第1金曜日）7:30から実施している。

当社が所在する岐阜市への社会貢献のために、長年にわたり地域の清掃美化活動に力を入れている。

本取組以外にも、長良川を美しくしよう運動（年3回）にも、積極的に参加している。清掃美化活動を通じて、地元の方々や岐阜を訪れた方に、美しい岐阜を身近に感じてもらえるよう活動を通じて、今後も地域に貢献したいと考えている。



清掃活動

事例

32

滋賀県 継続的な地域貢献活動

(株式会社 大野組)

大野組は、今年度、甲良町内の「在士高虎公園」においてボランティア活動を実施した。活動を行ったのは、大野社長と従業員の計8名で、地域住民の手ではどうしようもなかった親水公園のうっそうと茂る水草を、重機等で除去した。除去した水草はトラック数十台分になった。同公園は、長年地域住民の手によって清掃管理を行っていたが、少子高齢化により維持管理が困難となり水草が公園の象徴である藤堂高虎騎馬像を覆いつくし全容が見えない状態となっていた。そこで、大野組が「建設業で培った技術を地域へ還元したい」との思いから、重機を駆使した水草除去と美化活動を、無償で行う事に決め、大野社長はじめ従業員総出で残暑厳しい中での作業を実施した。地元ではすっきりと気持ちよく公園を利用できるようになり喜ばれている。大野組は、地域の運動公園野球場正整作業や小学校のグラウンドを含む敷地全体の除草作業、また令和3年度の豪雪の時には、重機が入れない狭い小学校の通学路の人力での除雪作業、他に長寺ゆず公園の除草や剪定ではゆずの棘が酷くて専門業者が拒否する程の作業など、過去10年以上に亘り、毎年このような地域貢献活動が無償で実施している。



事例

33

兵庫県 毎月の地域一斉清掃活動

(株式会社 大城工業所)

大城工業所では、社会貢献・地域貢献として平成29年9月より、月に1回近隣の清掃活動に励んでいる。清掃活動は、事務所周辺をA・B区域、C・D区域、E・F区域、G・H区域に4分割し、月1回地域を回りながら環境美化に取り組んでいる。特に地域からの要望がある場合は、その場所を優先し実施している。地域の方からは、「地域のために清掃していただけてありがたい。今後も清掃活動で、小中島地区がゴミのない、住みやすい街づくりとなることを期待している。」との声をいただいている。この継続した取り組みにより、尼崎市から、コミュニティ活動の中核となり実践活動を推進し豊かな地域社会づくりに貢献したとして令和6年度「コミュニティ活動功労者」の表彰を受賞した。今後も清掃活動を続け、ゴミのない街づくり、住みやすい街づくりを展開していきたい。



清掃活動(R6年3月)



清掃活動(R6年7月)

事例
34兵庫県
クリーン活動

(三宅建設 株式会社)

当社では、平成25年8月から『クリーン活動』として、毎月第1・第3木曜日 朝7時30分から清掃活動を実施している。

活動にあたっては、毎月始めに、社内各階掲示板に今月の予定日を掲示し、当日は社長をはじめ社員全員でお揃いの黄色のキャップをかぶって取り組んでいる。活動の範囲は、事務所周辺を中心に、東は日岡公園 西は日岡駅までの道路・駐車場・側溝であり、11年7ヶ月間継続中である。

作業中、近隣の方に「おはようございます。ご苦勞様です。」と声をかけられることもあり、地域に根付いた必要とされる企業づくりを目指して日々取り組んでいる。

平成29年には加古川市大野町内会から環境美化への貢献に尽力したとして感謝状の授与を受けたほか、加古川市が進めるアダプトプログラム（道路や公園などの公共施設を「子供」として守り育てていく美化ボランティア制度）に登録し、令和5年に多年にわたる功勞として感謝状の授与を受けた。



春は桜が綺麗只今清掃活動中



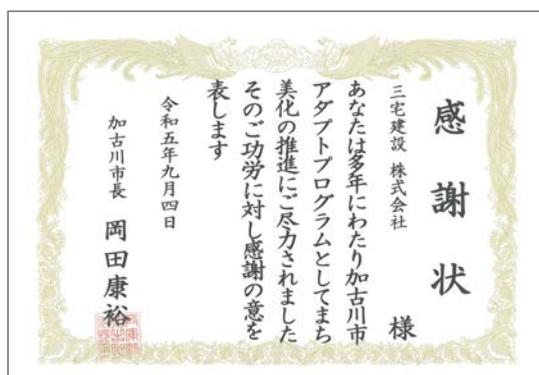
日岡駅周辺清掃活動中



日岡公園清掃活動中



本日の清掃活動終了お疲れ様



功勞への感謝状(加古川市長より)

事例
35

岐阜県
継続的な献血活動

(一般社団法人 揖斐建設業協会)

揖斐建設業協会では、新型コロナの影響により「輸血用血液が不足している」状況を知り、令和2年11月に岐阜県赤十字社の協力を得て、当協会員による献血活動を始めた。

この活動は、令和4年度より県下の各地区協会にも波及し、献血活動を実施している協会が増えている。今後も、地域の社会貢献活動の一環として、可能な限り継続的に実施していきたい。

令和6年11月20日に、岐阜県献血推進協議会より感謝状が手渡された。

【これまでの実績】

令和2年：27名 令和3年：35名 令和4年：27名 令和5年：17名 令和6年：20名



実際に使用された献血車



献血功労者感謝状

事例
36

北海道
豊平小学校 側溝清掃

(丸彦渡辺建設 株式会社)

平成25年頃、豪雨の影響によりグラウンドの排水状況が悪化、水たまりが発生するという問題が発生し、豊平小学校と面談を重ね、側溝に溜まる泥の清掃活動を開始した。活動の頻度は約2年に1回、継続的に行っている。

今年度は社員約40名が参加し、清掃を行った。また、児童の安全を考慮し、割れていた側溝蓋20枚を交換した。

<活動履歴> 約2年に1回のペースで計6回実施。

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| 1回目：平成25年11月14日 | 3回目：平成30年10月31日 | 5回目：令和4年10月7日 |
| 2回目：平成27年11月6日 | 4回目：令和2年10月20日 | 6回目：令和6年10月3日 |



側溝蓋交換の写真

札幌市豊平小で
校庭の側溝清掃
丸彦渡辺建設
丸彦渡辺建設(本社・札幌市豊平区)は3日、市立豊平小でグラウンドの側溝を清掃した。写真真。

地域貢献活動の一環として、2年に一度実施している。今回は鶴飼勇人社長や社員40人が参加。延長100mほどある排水用側溝に堆積した土砂をスコップでかき出し、高圧ジェット水で洗浄した。また、児童の安全を考え、割れていた側溝蓋20枚を交換した。

北海道建設新聞 R6.10.8

事例
37岩手県
長年に亘る地域の交通安全・防犯活動への尽力

(県北緑化 株式会社)

県北緑化は平成24年以降、通学路の交通安全警備や指導、交差点の除雪、全国地域安全運動への参加、祭り会場での交通安全グッズの配付等、地域の交通安全・防犯活動へ尽力している。

平成30年9月、令和4年9月に東北管区警察局長表彰、令和5年11月には県知事より表彰を受けるなど、多くの実績が認められ岩泉・田野畑「交通安全・防犯サポーター企業」として県内では初めて登録され活躍している。



R4年度 交通安全運動推進者表彰



R5年度 岩手県交通安全表彰(知事表彰)

事例
38岩手県
地元支援学校・支援学級等の生徒との協働活動

(株式会社 佐藤組)

佐藤組では、令和3年度から地域の支援学校との協働事業として様々な活動を継続的に実施している。令和6年度は当社南庭を体験農園とし、畝立、サツマイモの植付生育管理及び収穫を生徒と実施した。また、令和3年度は掲示板を協働作成。令和4年度は公園のベンチ補修を協働作業で実施。令和5年度は中学部の学生とすのこと本棚を協働で作成し、さらにそれを地元保育所に寄贈した。

これらの活動が、北上市まちづくりマッチングフェアに参加した23団体中、大賞に次ぐ「こども・子育て応援賞」の受賞となった。



サツマイモの植付



すこのビス止め

事例
39

山形県

豪雪時における児童の安全確保のための除排雪作業

(小白川建設 株式会社)

小白川建設は、毎年、積雪や除雪で寄せられた雪が路肩にうず高く積まれ、見通しが悪くなったり道路幅員が極端に狭まり、車と歩行者が接触する危険性があるため、除雪活動を実施している。豪雪となった今冬は、近隣の小学校の通学路において、通行する車両の安全確保と児童の登下校時の事故防止、また地域住民の安全な移動手段の確保を目的に、タイヤドーザとダンプを使用し、ボランティアでの除排雪作業を行った。

同様の除雪作業は、過去の豪雪時にも幾度となく実施してきており、最近では、令和4年1月や令和3年1月、平成30年2月にも実施し、その都度地域住民や児童と保護者から感謝の声が寄せられている。

今後も地域住民の安全を守る地元企業であるために、このような活動を継続していく。



建設新聞 山形版 R4.1.20



建設新聞 山形版 R7.2.18

事例
40

富山県

福祉施設誘致による地域コミュニティの創造

(塩谷建設 株式会社)

塩谷建設では、令和2年4月より敷地内に福祉施設を誘致し、地域コミュニティの創造を進めている。学童保育、訪問看護ステーション、多機能重症児デイサービス、相談支援事業所を生活拠点として提供し、児童から高齢者まで幅広い利用がある。

健全児と障がい児、子どもと社員・高齢者との交流を促し、ハンドボール体験や季節イベントも実施している。

将来的には少子高齢化の課題解決を目指し、社員や地域住民の子育て支援や介護と仕事の両立が可能な環境整備を進めている。



学童施設の様子



訪問看護ステーションの様子

事例
41富山県
長年にわたる子ども110番の家

(株式会社 藤井組)

藤井組は、南砺市立井波小学校の近隣に位置することから、不審者や変質者から子どもを守り、安心して子どもたちが学校に通える地域づくりを支援するため、「子ども110番の家」のボランティア活動に参加して地域に貢献することを目的としている。

活動内容

- ・子どもが「誘拐や暴力、痴漢」など何らかの被害に遭った、遭いそうになったと助けを求めてきたとき、その子どもを保護する。
- ・事件・事故の発生を認知したとき110番通報、学校、家庭への連絡をする。
- ・日常生活のなかで、近所に子どもたちが被害に遭いそうな危険な箇所等を発見した場合、警察へ連絡する。
- ・子どもがいつでも駆け込める体制を整備。子どもが駆け込んだ場合の対応マニュアル（警察庁『子ども110番の家』地域で守る子どもの安全対応マニュアル）を社員に配布し、早急に関係機関へ通報できるようにしている。
- ・本社前の通学路には「子ども110番」ののぼりを立てて、防犯に対する地域の関心を高めるとともに、社用車に「子ども110番」のステッカーを貼り、犯罪者の近寄り難い雰囲気アピールしている。
- ・子どもたちの「トイレを貸して」「雨が降り出してやむまで待たせて、雷が怖い」といった事件・事故以外でも思いやりを持って対応している。



社内会議『子ども110番の家』対応マニュアルの配布・説明



本社前 のぼり旗

事例
42大阪府
献血推進活動

(株式会社 銭高組 大阪支社)

銭高組大阪支社では、平成22年に献血サポーターに登録以降、積極的に献血活動を推進し、年2回、これまで計29回の献血活動を実施している。

令和6年12月に日本赤十字社大阪府支部長より感謝状を拝受した。



感謝状 R6.12.1



実施の様子

事例
43

青森県

地域資源を再活用した国内資源肥料の利用拡大

(株式会社 中屋敷建設)

中屋敷建設は、三沢市浄化センターから排出される「排水処理活性沈殿物（下水）」を発酵させ、肥料化する事業に取り組んでいる。

下水汚泥肥料を製品化する際に、甘味料として知られる「ステビア」の粉末を製造工程で混ぜ合わせた。ステビアには土壌微生物の活性化や、作物の糖度の上昇、ダイオキシンやニコチンの解毒作用などの効果が確認されているため、肥料の副資材として使用することにした。そうしてできあがった肥料が「ステビアキング」だが、令和6年12月には、国が新たに設定した公定規格「菌体りん酸肥料」に青森県内第1号として登録され、菌体りん酸肥料「ステビアキングA（エース）」として生まれ変わった。

「りん」は肥料の三大要素の一つであり、作物の育成に欠かせない栄養素である。作物にとって豊富な栄養素を供給できるため、作物の成長を促進し品質向上が期待できる。また、下水汚泥肥料には大量の微生物が含まれていることから、有機物の分解・発酵を促進し、土壌改良効果を高めてくれる。継続して続けていくことで土壌が豊かになり、作物の収穫量増加、化学肥料の削減や地球温暖化緩和、水質保全など農業面でも環境面でもメリットがある。

農林水産省では、輸入原料に依存した肥料から国内資源を活用した肥料へ転換させる政策を推進しており、当社の製品が「菌体りん酸肥料」に登録されることによって、品質管理計画に基づき定期的な成分分析等が行われ、肥料の成分保証や、他の肥料との混合が認められるようになることで、多様なニーズに応じた肥料の生産と流通が可能になった。

過去には、焼却処分や埋立処分されていた下水汚泥を再活用することによって、リサイクルの重要性を改めて認識し、私共の取組みが、地球規模での環境負荷の低減と地球温暖化の抑制に寄与できると確信している。

また本事業を通じ、市場の肥料価格高騰や品薄状態の克服と安定に努め、持続可能な農業生産と循環型社会の形成、地産地消に貢献できるよう、引き続き取り組みを進めていく。

登録番号：青森県第389号

菌体りん酸肥料

ステビアキングA

(エース)

弊社は、平成19年より三沢市浄化センターから排出される「排水処理活性沈殿物（下水）」を発酵させ、堆肥化する事業に取り組んでおります。この製品は、甘味料として知られる「ステビア」の粉末を製造工程で混ぜ合わせたもので、令和6年12月には、国が新たに設定した公定規格「菌体りん酸肥料」に青森県内第1号として登録され、菌体りん酸肥料「ステビアキングA（エース）」として、新たに生まれ変わりました。農林水産省では、輸入原料に依存した肥料から国内資源を活用した肥料へ転換させる政策を推進しており、本事業を通じ、市場の価格高騰や品薄状態の克服と安定に努め、持続可能な農業生産に貢献できるよう、取り組みを進めてまいります。

ステビアとは？

- ステビア（学名：Stevia rebaudiana Bertoni）は南米パラグアイやブラジルに自生するキク科の植物で、154以上の種があるとされています。
- 古くから人間・動物・植物に効果があることが知られており、先住民は下痢止め・熱冷ましとしての薬草や甘味料として使用してきました。
- 葉に含まれる甘味成分ステリオサイドは砂糖の約300倍の甘さがあり、カロリーは砂糖の約90分の1程度であることから、現在多くの食品に甘味料として使用されています。「シュガーレス」「ノンシュガー」と表示されている製品の殆どがこのステビアを使用したものです。
- ステビアは様々な研究機関でその効果が研究されており、甘味料だけでなく多くの分野でも注目されています。
- 葉以外の枝・茎にも優れた成分が含まれていることが分かっています。

下水（汚水）

一般家庭

三沢市浄化センター

排水処理活性沈殿物

資源の循環

田んぼ畑など

有機質肥料
ステビアキングA

お米、野菜、果物など

naconst.com
（株）中屋敷建設

famico.go.jp
協賛：三沢市浄化センター
（FAMIC）

maif.go.jp
農林水産省
消費・安全政策課
消費・安全政策課安全
管理課

成分	N	P	K
(窒素)	(リン酸)	(カリウム)	
2.0	2.0	—	

■成分分析結果 ※2025年2月分析

成分	N	P	K
(窒素)	(リン酸)	(カリウム)	
2.2	2.3	0.3	

株式会社 中屋敷建設
tel: 0176-57-2773

事例
44

建設業ふれあい活動

山梨県
建設産業出前授業

(一般社団法人 甲府地区建設業協会)

中学生や高校生を対象に出前授業を実施している。
 中学校では、地域の守り手として建設業の社会的役割を説明、建設業で働く魅力を伝えた。高校進学
 の進路を決める前の中学生に、ICTを活用したドローンや最新の測量・施工技術、建設重機等に触れても
 らうことにより、建設過程高校への進学意欲を高めてもらう機会をつくった。
 高校では、建設業が担う役割の重要性ややりがい、ICT等を活用した現場の生産性・安全性の向上など
 現在の姿を伝えた。
 講師を招き「建設業の魅力と若者活躍推進」を伝えるために技術者講義を行った。
 グラウンドでは、建設機械の実演・演習も行い、締め固め用建設機械（ローラー）、移動式クレーン、
 車両系建設機械（油圧シャベル）を用いて、生徒さんにも試乗体験をしてもらった。
 建設産業で働く魅力を発信することにより、建設系学部への進学や建設業界への就職につなげる。



農林高校 会員による講演



東中学校 建設機械乗車体験

事例
45

建設業ふれあい活動

山梨県
小学校での建設機械等の乗車体験会

(一般社団法人 身延建設業協会)

小学1年生の国語の「じどうしゃくらべ」の授業で登場する機械を実際に体験してもらい、建設業の担
 い手確保、イメージアップを図る目的で行った。

実施日：令和4年11月22日（火）

場 所：南部町立睦合小学校 参加者：1年生、2年生 34名
 乗車体験車両：ショベルカー、ホイロローダー車、パトロール車

実施日：令和5年10月23日（月）

場 所：南部町立富沢小学校（富沢小、睦合小、栄小合同開催） 参加者：1年生 34名
 乗車体験車両：ショベルカー、クレーン車、高所作業車、ローラー、ダンプカー、パトロール車

実施日：令和6年10月21日（月）

場 所：南部町立栄小学校（富沢小、睦合小、栄小合同開催） 参加者：1年生 30名
 乗車体験車両：ショベルカー、ダンプカー、クレーン車、ホイロローダー、ローラー、高所作業車、ミキサー車、凍
 結防止散布車、除雪トラック、標識者、パトロールカー、パトカー、白バイク、消防車、救急車等



乗車体験



はたらくるまと記念撮影

当協会は中学校で開催される「就労学習」に参加することを目的として体験学習会を企画し、教育委員会に働きかけを行っていた。

しかし、学習会の前に生徒アンケートを行ったところ、建設業のイメージについて「過酷労働」「大変」「危険」「重労働」「家・建物を造る」という回答が約70%もあり、建設業を正しく認識してもらう必要があると考え、学習会の内容を見直し開催を継続してきた。

建設業についてアピールした内容。

- 災害発生時には、自衛隊・消防より先に現場に駆け付け、応急対策や復旧工事を行っていること。
- 「生活に必要な道路・橋・トンネル」、「生活を守るダム・堤防」を造っていること。
- 建設業は地域を守り・支える仕事であること。
- 建設業の仕事は多くの専門分野に分かれており、チーム一丸となって作り上げるものであること。
- 技術革新も進んでおり、建設施工機械の自動化・遠隔操作や、3Dデータを使用し完成予想図を作成することで部材・配管の設置位置を確認できること等。

第1部は、上記内容を網羅したアニメーション・写真等を使用した動画を視聴。

第2部はブースを複数設けて体験・学習する。

- 試乗体験はロータリー除雪車、除雪ドーザー、ミニバックホウ等で実施。
- ドローン実演では、生徒にドローン操縦を体験してもらっている。
- 現場作業中の重機運転席に360度カメラを設置し撮影した動画を、タブレット又はゴーグルを使用して、重機操縦を疑似体験。
- 防災学習として、県建設部職員が土石流模型、耐震構造模型、液状化現象模型他を使用して、発生原因別に被災状況や対策工法による抑止効果等を説明。また、パネルや動画を使用した説明も行っている。

令和6年度は1市1町3村で6校体験学習会を開催した。また、2市と1郡（1市3町10村）の教育委員会等に当該活動の説明を行い、中学校での体験学習会開催について検討を依頼した。

- 引き続き県内全域への展開を目標に、活動を行う予定。



AI が出演するアニメを使用した建設業に関する説明



ドローン操作体験(青年部会 担当)

事例
47

建設業ふれあい活動

静岡県
親子現場見学会の開催

(一般社団法人 静岡建設業協会)

静岡建設業協会が実施する「親子見学会」は、親子のふれあい、参加者同士の交流を楽しみながら、建設業への理解を深めていただくことを目的として、働きながら一人で子育てをしなくてはならないひとり親の皆さんに、親子の時間を持つ機会や同じ境遇の皆さんが情報交換をする場として、建設工事現場を含めた見学会を、平成11年より継続して実施している。

これまで、中部電力株式会社の浜岡原子力発電所、沼津河川国道事務所の狩野川放水路、静岡県の新々富士川橋の整備事業など、様々な機関にご協力いただき事業を進め、令和6年度は、中日本高速道路株式会社沼津工事事務所所管の新東名新御殿場ICから県境に掛けてのトンネル・橋梁現場を視察させていただき、参加者は普段立ち入ることのできないトンネル内を歩くなど、その空間の大きさを直接感じる、日常では味わうことのできない貴重な体験ができた。

今後もこのような活動を通して、会員間に社会奉仕精神の高揚を図ると共に、地域のあらゆるところに目が届く地域密着の協会であり続けるよう、更なる成長、発展に繋げていきたいと考えている。



志摩市20周年を記念した「建設フェスタ&商工まつり」を志摩市、志摩市商工会との共催で開催した。来場者は約1万人。

当支部は、建設業や工事に興味を持ってもらおうと企画し、工事現場で活躍する建設機械・車両を展示し、重機と間近で記念撮影、高所作業車の試乗、ミニパワーショベルを用いたボールすくい、また、測量機器を利用した宝探し等の催しものを実施した。



迫力! 建設機械や車両ずらり 志摩でフェスタ

志摩市制20周年を記念した「建設フェスタ&商工まつり」が15日、市内の阿児アリーナや周辺で開催された。工事現場で活躍する建設機械や車両が計16台登場したほか、飲食物を扱う地元事業者らのブースが出た。

市と県建設業協会志摩支部、市商工会の3者が共催した。建設フェスタは、建設業や工事に興味を持ってもらうと企画。パワーショベルやモーターグレーダー、ブルドーザーなどが展示され、近づく記念写真を撮る来場者の姿が見られた。

協会志摩支部の西尾亮支部長は「興味を持ってもらって、感謝している」と話していた。

(阿部竹虎)

見学用に展示された建機＝志摩市の阿児アリーナ周辺で

中日新聞 R6.9.21

事例
49

建設業ふれあい活動

石川県
地域イベントで建設業の役割をPR

(一般社団法人 羽咋郡市建設業協会)

令和6年10月20日（日）、「支えあいの絆でつなぐはくい未来」をテーマに開催された「はくい福祉まつり」に参加して、建設業への理解と関心を深めてもらえるように、建設機械体験試乗会やパネル展示などにより、建設業の役割を紹介した。

「はくい福祉まつり」は、交流やふれあいを通じて福祉への理解を深めるための催しで、コロナによる自粛期間を終え、3年ぶりに開催されたイベントで、当日は約8千人の来場者があった。

会場周辺では、福祉関係団体やボランティアが集まり、福祉活動の体験や模擬店などが出店され、当協会もその一画に展示ブースを設け、小学生以下を対象として、建設機械の体験試乗や建設業の役割を紹介するパネル展示を行った。試乗会には多くの親子連れが訪れ、体験した延べ100人を超える子供達には景品として建機のミニカーを配布した。

羽咋郡市建設業協会では平成26年度より建設業ふれあい活動の一環として、建設業を身近に感じてもらうため、園児や小学生を対象に建設機械の体験試乗会を実施しており、今後もこうした活動に積極的に参加して、地域との絆を大切にしていきたいと考えている。



建設業の魅力をPR
羽咋郡市協会、福祉まつりで

羽咋郡市建設業協会の「児童がミニショベルカーに試乗し、ボールすくいを楽しんだ。社会生活に役立つ建設業の魅力をPRした。」という内容の記事が掲載された。記事には、20日、羽咋市鶴多町の「はくい福祉まつり」で、建設業の魅力をPRするイベントが行われたことが紹介されている。当日は、建設業の役割を紹介するパネルも展示された。来場した子ども達には、景品として建機のミニショベルカーが配布された。

参加ブースには多くの親子連れが訪れ、園児や

ミニショベルカーに試乗し、ボールすくいを楽しむ子ども＝羽咋市鶴多町

建設工業新聞 R6.10.22

事例
50

建設業ふれあい活動

福井県

イメチェンイルミ2024 in わかさ

(一般社団法人 若狭地区建設業会 建設青年委員会)

若狭地区建設業会建設青年委員会は、昨今の若手・担い手不足に悩まされている建設業界において、次世代を担う子ども達や若い世代に建設機械に触れ、興味を持ってもらい、イベントをきっかけに一人でも多くの入職者を増やすことを目的に「イメチェンイルミ2024 inわかさ」を開催した。

イベントでは、重機等6台や塩ビパイプで製作した北陸新幹線模型にLEDの電飾を装飾し、夜間に点灯させるナイトイルミネーションや、重機乗車体験会を実施した。令和4年から実施し令和6年で3回目となる。

ある程度地域にも認知され、週末およびクリスマスを中心に家族連れ等の約500名の方が来場していただいた。

また、期間中実施したアンケートでは、好意的な意見が多数あり“イメチェンイルミ”というタイトルどおり建設業のイメージチェンジが図られた。



サンタクロース



高所作業車による滝・クリスマスツリー・トンネル

事例
51

建設業ふれあい活動

福島県

継続的な建設業の魅力発信活動とヘルメット寄贈

(株式会社 オオバ工務店)

当社では、毎年、地元の工業高校建築科の生徒をインターンシップとして受け入れ、生徒が自己の職業適性や将来設計について考える貴重な機会を提供している。

ある時、インターンシップに来た生徒の保護帽を確認したところ、耐用年数の過ぎた保護帽を使用しており不安を感じた。

同社は、これから建設業界を支える人材として活躍してもらうためには、安全の確保が何よりも大事と考え、以来、毎年、協力会社と共に、同校建築科新入生（1年生）へ保護帽の寄贈を行っている。

寄贈にあたっては、SDGs開発目標4（質の高い教育をみんなに）の促進を目指し、同校を訪れ、生徒を前に保護帽着用の重要性や正しい点検、使用方法、着用規定、耐用年数等を解説し安全意識の向上を図っている。

また、同校出身の社員が仕事のやりがい、魅力などを直接、生徒に伝える活動も同時に行っている。

今後も、保護帽の寄贈活動を継続し、将来の担い手の確保に向け、建設業の役割や魅力を若い世代に伝えていきたいと思っている。



大場社長からヘルメット寄贈



ヘルメット着用手順説明

事例
52

建設業ふれあい活動

三重県

次世代の若者へ建設業に対する理解と
建設業の必要性、魅力、興味を発信するために

(株式会社 竹島建設)

建設業の就労者減少が深刻化する中、当社は伊賀市で行われる建設業協会主催の中学生向け現場見学会に継続して協力し、若い世代に建設業の魅力を伝えるため、見学内容を社内で検討し協会へ提案してきた。

令和4年度より地元阿山中学校の通学路の除草作業を行うに当たり、出前授業も提案したところ、校長、教頭から、ぜひキャリア教育の一環としての実施要望を頂いた。

令和4年度は7月に座学を中心に建設業の必要性と意義、魅力を説明し当社の現場の実績紹介を行った。

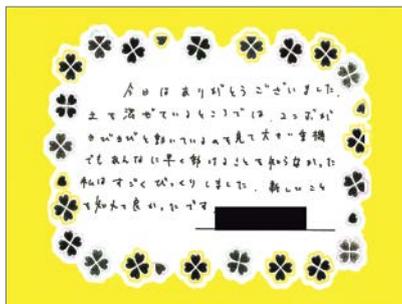
令和5年度は校舎前面広場を利用して、ネチス登録ラジコン草刈り機の操作体験やARによる3次元構造物をグランドに出現する体験、ドローンの操作体験を行った。

令和6年度は校舎前面広場、グランドを利用して昨年好評だったラジコン草刈り機の操作体験、タブレットハンディスキナーによる3D体験、10tダンプトラック、バックホウの試乗体験を行った。

また、出前授業での実践的な体験が大きな刺激となり、参加した生徒の中から実際に建設系の高校へ進学する生徒が複数名誕生した。後日、生徒たちから心こもった温かいお礼の手紙も寄せられた。当社としては今後も出前授業、を継続する予定である。建設業者として次世代の中学生に建設業の必要性と魅力を発信できたと自負している。



R6. 阿山中学校出前授業



生徒からのお礼手紙

事例
53

建設業ふれあい活動

大阪府

トンネルが結ぶ！ふれあいの輪

(戸田建設 株式会社 大阪支店)

新名神高速道路宇治田原トンネル東工事は、大津～城陽間に計画されている新名神高速道路のうち宇治田原地区で行う工事であり、切盛土工、橋台を含むトンネル工主体の道路新設工事である。

当現場に関係する方々の家族を対象とした見学会を実施した。家族に自身の仕事の内容を理解してもらうこと、建設業を身近に感じてもらうことを目的としている。「家族に自分の仕事を見てもらえて誇らしい気持ちになった、仕事への活力が更に湧いた」など喜びの声が多数あった。



建設業ふれあい活動



地域活性化の取組

事例
54

建設業ふれあい活動

兵庫県
働く車見学会の開催

(福井建設 株式会社)

福井建設では平成29年より、地元の小学生を対象に建設業ふれあい活動「働く車見学会」を開催している。建設業に関わる機械（ドローン）や、重機（ショベルカー・除雪車・ミキサー車・ダンプ車等）を用意して、子供たちに実際に目で見て触って乗車体験をしてもらい、各車両の役割や特徴などを説明している。

子供たちは、重機を見かける事はあっても、実際に乗車する機会はほぼなく、重機が動いたときには、今までお喋りをしていた子供たちが息をのむように見つめ、動く重機や機械に圧倒され、目を輝かせていた。毎年実施後には、小学生の皆さんから感謝状をいただき好評をいただいている。

建設業に触れる機会を設け、建設業の魅力を感じ、いつか将来建設業に携われるキッカケに繋がれば、という思いで、継続的に実施していく。



子供たちに人気の乗車体験

事例
55

建設業ふれあい活動

山口県
中高生への建設業の魅力を伝える出前事業

(株式会社 井原組)

山口県土木建築部では産官学連携の「山口県地域を支える建設産業担い手確保・育成協議会」を平成26年度に設置し、様々な人材確保対策を実施している。

その事業の一環として、中高生向けに建設業への魅力を伝える出前授業「建設ゼミナール」を平成26年度から令和6年度までの過去11年間にわたり実施している。

井原組では、「建設ゼミナール」において長年、講師を積極的に多く務め、中高生へ建設業の魅力を伝えている。



事例
56

建設業ふれあい活動

鹿児島県

国分小学校『しごと村』

(淵脇建設 株式会社)

淵脇建設は、令和3年から霧島市立国分小学校の4年生を対象にした『しごと村』に参加し、『まちのために つくる なおす たすける』をスローガンに、建設業がどんな役割を持っているか、どんな仕事をしているのかを小学生目線で分かりやすく説明し、興味や理解を深めていただいている。

『建設業ってどんな仕事?』を題材に、スクリーンを使った説明やドローンや測量機などICTの説明をし、空調服やヒートベストの仕組みなど、実際に見たり触れたり、写真を撮ったりもした。

「しごと村」を終えた児童からは、毎年、「建設業の事をもっとたくさん知りたい」「ぼくもこんなカッコいい仕事をしたいです」といったお礼の手紙が届いている。

建設業の魅力が一人でも多くの児童に伝わり、将来の夢の道しるべになることを期待しながら、今後もこの活動を続けていく。



子供たちに仕事の特色や働く楽しさを伝えた



ドローンや遠隔操作機器の使い方を教えた

事例
57

SNS・メディアによる広報活動

富山県

SNSによる建設業や自社の魅力UP 発信活動

(株式会社 斉藤組)

当社では広報活動の一環として、令和3年9月にXの公式アカウントを開設。(アカウント：@nanto_saitogumi)

社内の日々の様子や、現場の施工プロセス、会社の紹介などを発信している。

X上では県内外建設業者との情報交換はもちろん、建設業以外の会社との交流を通して、建設業の実際の仕事内容や、当社について少しでも知っていただけるきっかけづくりを行っている。

フォロワーは現在160とまだまだ少ないが、業界や自社のPR活動として今後も活動を継続していきたい。



工事の状況は施工プロセスがわかるようにツリーで紹介



会社説明会で紹介している内容なども展開

栃木県
除雪カードの作成・配布

(一般社団法人 栃木県建設業協会 日光支部)

栃木県建設業協会日光支部では、会員企業が除雪作業に取り組む様子を収めた写真を掲載した7種類の除雪カードを作成し令和6年11月8日より日光支部の窓口で無料配布を始めた。

県内有数の降雪地域である日光市の住民及び観光客の安心安全、世界遺産日光の未来を創る建設業が果たす役割を知ってもらい、建設業に興味をもってもらうために作成した。

県内外からたくさんの方が除雪カードを求めて日光支部へ訪れてくれた。また、栃木県道路公社では日光道の閑散期交通量増加対策として日光口パーキングエリアでの除雪カードの配布を行った。



広報用除雪カード

栃建協 日光支部 除雪カードを作成

世界遺産日光の未来を創る地域に根ざした建設業団体

7種類、支部の活動をPR

県建設業協会日光支部(榎本美明支部長)は、除雪カードを作成した。地域の安全安心を守る支部のPRが目的。カードは7種類、1種類300枚ずつ合計2100枚作成した。支部で平日午前8時半〜午後5時に配布する。

カードは縦5.5センチ×横9センチ。表面は7種類とも日光地域の冬の住民生活に欠かすことができない除雪車両の写真を掲載し、住民の安全安心、観光をはじめとする産業を守る建設業を力強く訴える。写真は日光土木事務所で行われている道路除雪隊出動式で出発を待つ大型除雪車両、金精峠で男体山をバックに勢いよく空に排雪する除雪車両などダイナミックなものに掲載。写真の上部には「世界遺産日光の未来を創る地域に根ざした建設業団体」という文字を記載した。

裏面は支部の企業37社の社名を記載。支部の連絡先と支部のホームページへ導くQRコードも添えた。問い合わせは日光支部(電話0288-54-0140)。

栃木県道路公社 @TochigikenD

【#除雪カード 配布第一弾🔥】
#日光宇都宮道路の#日光口PAにおいて12/21(土)~26(木)、除雪カードを配布します🔥
本カードは、建設業PRのため#栃木県建設業協会日光支部様で作成されました👏

上り4種、下り3種で両PAとも1家族様1日1枚の配布です👏

詳細はココから👉
totidoko.or.jp/news/josetucar...

← ポスト

除雪カード配布中

第一弾...令和6年12月21日(土)~26日(木)
第二弾...令和7年1月14日(火)~無くなり次第終了

除雪カードとは、除雪車両の写真をカード化したもので、栃木県建設業協会日光支部様で、建設業を広くPRするために作成したものです

下(日光方面)PA 3種類

1 高川 2 日光土木事務所 3 上三原

上(宇都宮方面)PA 4種類

4 大宮牧場 5 金精峠 6 湯元 7 金精峠 8 湯元

欲しい方はしじ店員までお声掛けください!! (無料)

1家族様1枚まで

午後4:43 · 2024年12月19日 · 8,652 件の表示

事例
59

広報ツール・アイテムの活用による広報活動

愛知県
オリジナル絵本による建設業のイメージアップ

(株式会社 加藤建設)

加藤建設では、「建設業をあこがれの職業NO.1へ」をテーマに令和2年7月から社内にてブランディングプロジェクトを立ち上げ様々なことを検討・実施してきた。

その中で、小さなお子さんから建設業を身近に感じてほしいとの意見をもとに令和5年1月に絵本製作を決定。内容を社内メンバーにて検討し、令和6年9月に完成した。

タイトル：『桃太郎がやってくる～どうなる鬼ヶ島!?～』

(原案：田中仁(加藤建設)、製作：三恵社)

あらすじ：「のんびり平和に暮らしていた鬼たちに、ある日突然一通の手紙が届く。送り主は桃太郎。

その手紙には鬼退治に行くを書いてあった。鬼たちは身に覚えのない罪を着せられ、退治されてしまうのか…そんな時に鬼たちがとった行動とは…どうなる鬼ヶ島!？」



怖そうに見える鬼たちを建設業、桃太郎は世間の目をイメージしている。一見怖そうに見える鬼たちが、その見た目のせいで偏見を持って見られてしまう…。でも本当は人々の安心・安全な生活を支えていてスゴイ技術をもっているという内容になっており、この物語を読んで、少しでも建設業っていいなと感じてもらえるように考えた。

建設業は、人々の安心・安全・便利な生活を支えるために様々なインフラ整備をしている基幹産業である。

ただ、危険な仕事、なんか怖そう、などイメージがあまり良くないのも現状である。そこで大人も子供も知っている桃太郎をモチーフに加藤建設の社員がストーリーを作り、小さなお子さんと一緒に読んだ親御さんの建設業に対する偏見を変えたいと思った。

製作した絵本は、社員への配布のほか、地元の子育て支援のNPOを始め、保育園や幼稚園、小学校や弊社の拠点がある地域の図書館などを中心に全国に約1100冊献本した。

新聞掲載やラジオ・SNSにて告知したところ、一般の方から業界の方まで様々なお声がけを頂き、絵本の献本依頼が数多く届いた。特に絵本の読み聞かせをされている方からは、今までの建設業のイメージが変わり子供たちに伝えたいとお礼のメッセージが届いている。

今後もこの絵本を通じて、建設業界のイメージアップ広報を進めていく所存だ。



朝日新聞 R6.10.4

当社では令和4年度より、テレビCMにてアニメ調コマーシャルを放送している。令和4年度は計87回、令和5年度は計87回、令和6年度は回数を増やし、計115回の放送を行った。

自社のアピールを主目的としつつ、地域の方や子どもを持つ親世代の方々に建設業界を広く知ってもらう目的も含め、コマーシャル放送を利用することとした。アニメ調の構成にすることにより、若い人にも目につきやすく、若手人材不足の建設業界において少しでも状況改善に貢献できればと考えた結果である。

また、コマーシャルの内容として、男女関係なく一緒に働いている様子や協力業者と打ち合わせしている様子、力仕事だけではなくパソコンで作業している様子なども入れ、建設業のイメージアップに心がけた。最後にお父さんと子どもの家庭でのシーンを取り入れることで家族との時間を持ちながら仕事と両立して働けることや要所に地元南砺市の風景を織り込み、建設業で働くことで地元貢献した働き方ができるようなイメージを持ってもらえるような構成に努めた。

放送時期は夏休みや年末年始、就職活動時期などの若い人も目につきやすい時期を中心に集中的に放送している。

コマーシャルはテレビ放送にとどまらず、昨今のSNSの劇的な普及も鑑みYouTube、Instagram、HPでも掲載しており、各メディアを通じて広く知ってもらう取組みも行っている。

今後も建設業界に簡単に触れてもらう一つの方法として、テレビコマーシャルでの広報活動を行っていく予定である。

<https://youtu.be/8-WWiLUVGCg?si=S9krKmckXSSA3yGx>



協力業者との打合せの様子



パソコン前で作業している様子



お父さんと子どもの家庭でのシーン



地元南砺市の風景とメッセージ